

## 大きくな〜れ 稚アユを放流



中新川内水面漁業協同組合滑川支部による稚アユ（アユの稚魚）の放流事業が5月26日に上市川で行われました。この事業は、園児に川魚への関心を持たせることや、河川を含む自然環境への保全に対する健全な精神を養うことを目的に、毎年5月末ごろ行われています。

今年は、童和、中加積、和光保育園の園児56人が参加。園児はバケツに入った稚アユを見つめ、「大きくな〜れ」と声をかけながら、上市川に放流していました。

## ニジマスいっぱい捕れるかな



ニジマス釣りや手づかみ大会が5月31日、行田公園で行われ、多くの参加者で賑わいました。はじめに、ニジマス釣り大会が行われ、子どもから大人まで、121人が参加。参加者らは公園内を流れる中川に放流されたニジマスを釣り上げ、その釣果を競いました。

釣り大会後、小学生以下の子どもを対象に、手づかみ大会が行われました。子どもたちは、家族からの応援を受けながら、小川を泳ぐニジマスを追い、捕まえると、とても嬉しそうな表情をみせていました。

## 句の題材を探して市内を散策



現代俳句を代表する女流俳人として活躍されている黛まどかさんを招いて、東福寺野自然公園や橋場など、市内の優れた景観の地や歴史のある地を訪れ、俳句を作る『黛まどかさんと歩くなめりかわ吟行会』が5月30日、晴天のもと行われました。

吟行会には市内外から25人が参加。黛さんからアドバイスを受けながら、風景や心情を句として書き出し、終始楽しそうに過ごしていました。吟行後、参加者の句を黛さんが選句し、優秀な句の発表が行われました。

## スポーツの祭典が開幕



今年で3回目となる市民参加型のスポーツイベント、市民スポーツフェスタが6月7日開催され、その開会式が、総合体育センターで行われました。はじめに早月中学校吹奏楽部による演奏や、キッズチアリーディングチーム「Tinks（ティンクス）」による、元気・勇気・笑顔テーマにしたチアが披露され、参加者にエールが送られたあと、スポーツ少年団結団式や生涯スポーツ表彰式などが行われました。

開会式終了後、各種スポーツ競技の体験会などが行われ、参加者らは爽やかな汗を流していました。

## 選ばれた漢字一字は



厚生連滑川病院内にある泉「孝徳泉」には、京都清水寺にまつわる民話が言い伝えられています。その縁もあり、平成8年から同寺の貴主・森清範さんを招き、「滑川音羽の会」主催による講演会が毎年開催されています。

今年は、20回目の記念講演として6月7日、市民会館大ホールにおいて市民文化講演会が開催されました。

講演では、市民から滑川にふさわしい漢字一字として最も応募の多かった『螢（ホタル）』が選ばれ、会場で揮毫が行われました。その後、講話が行われ、ユーモアあふれる森さんの話に参加者らは聞きいっていました。

## やさしさに包まれたなら



「やさしさ」を花言葉とする花菖蒲。6月初旬から1カ月ほどの期間が開花期間とされています。

花菖蒲の名所である行田公園には88種・約4万株が植えられています。今年も白や紫の艶やかな花菖蒲が公園内を彩っており、訪れた人の心をひきつけていました。

また、6月13日から21日には「花しょうぶまつり」が開催され、滑川ガイドボランティア「はいつぎ」によるガイドツアーが行われるなど、公園内は賑わいをみせていました。

## ホタルを通して学んだこと



6月12日、「ホタル観賞のつどい」が行われ、市内の小学生とその保護者33人が参加しました。

はじめに、田中小学校の児童5人が同校のピオトープで飼育しているホタルの生態や、ホタルのエサとなるカワナなどについて、一年を通して学んだことを、参加者に丁寧に発表していました。

その後、バスに乗り小森地内に移動。清流の傍で幻想的な光を放つホタルの様子を観察し、何百と飛ぶホタルの姿に感動しながら、環境を守ることの大切さを感じているようでした。

## 爽やか笑顔で元気に挨拶！



6月16日から18日までの3日間、あいの風とやま鉄道滑川駅・富山地方鉄道西滑川駅などで、滑川高校の生徒が取り組む「夏のさわやか運動」が行われました。

この運動は、滑川高校の生徒が挨拶運動や美化活動を主体となって取り組み、地域の方々と連携することで、社会の一員としての自覚の向上を図ることを目的に毎年行われているもので、今年は3日間で約200人の生徒が参加しました。生徒らは、駅周辺での除草作業や、電車を利用する通勤・通学客に挨拶を行うなど、爽やかな笑顔で運動に取り組んでいました。